

V 日高振興局

1. お花を愛でて心優しく育てて・・・ 「花育」活動を実施

5月18日、日高地方農業士会（会長：谷 廣美）と日高地方花き連合会（会長：佐藤公彦）は、共催で「花育」活動を実施した。

この活動は、子どもたちが花に親しみ、花とふれあう機会を通して豊かな心を育くむとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと行っているもので、今年で10回目を数える。両会員らは、花き連合会会員が育てたスターチスや宿根カスミソウ、カーネーションなど約2,000本の切り花を花束にし、管内の小学校33校（支援学校含む）に日高地方の花を紹介したパンフレット、参考資料とともに届けた。

10回目の節目となる今回は、対象を5、6年生とする一方、贈呈式実施校（6校）のうち3校（切目小学校、和田小学校、松原小学校）で花き連合会会員が講師となって子どもたちに簡単な花束ギフトを作ってもらった体験学習を実施した。

切目小学校で行われた贈呈式では、谷会長と佐藤会長が児童代表に直接花束を手渡し、花に関する講話を行った。谷会長は「家でも花を飾ったり、花壇で育てたりして、元気で優しい人に育ててください。」と呼びかけた。続いて花束ギフトを作った児童らは、作品を手に「大好きなおばあさんにプレゼンとしたい。」などと笑顔で話していた。佐藤会長も「花束ギフトづくりは初めての取り組みで少し心配もあったが、子どもたちはたいへん楽しそうに作ってくれた。これが気軽に花をプレゼントするきっかけになってくれれば。」と話していた。



贈呈式（切目小学校）



花束ギフトづくり（松原小学校）

2. 平成30年度日高川町新果樹研究会主催 かんきつに関する講演会を開催

日高川町内のかんきつをはじめとする果樹栽培農家で結成し、果樹の栽培技術向上や安定生産および産地の活性化を目的に活動を行う日高川町新果樹研究会(川越安信会長)が、5月29日、日高川町農村環境改善センター大会議室において、かんきつに関する講演会を開催した。

当日は、会員に加え日高川町内からの会員外の生産者も含め計24名が出席した。講演会では、基調講演として大阪管区気象台気象防災部の笠谷博幸予報官から「農業への気象情報の利用について～近年の気象変化に備えて～」と題し、過去10年の季節ごとの天候の特徴や近年の気象変動について説明があった。併せて、今年3月に公開し運用が始まった「農業に役立つ気候情報の利用の手引き」の概要について説明を受けた。



川越会長からの挨拶



講演を行う笠谷予報官

笠谷予報官の説明では、100年前と比べ和歌山は1.5度平均気温が上昇しており、今後100年で年平均気温の上昇や、真夏日および時間雨量50mm以上の大雨が発生する回数が増加することが予測されるとのことで、農業を取り巻く気象環境の変化に参加者は熱心に耳を傾けていた。

また、講演会後には、平成29年度にカンキツにおいて適応拡大された農薬(殺虫剤)2剤について、農薬メーカーから製剤の特徴や殺虫効果に関する説明があった。

日高地方の中でもカンキツ栽培が盛んな本町内では、年間を通じ特定の農薬の連用による殺虫効果の低減が危惧されており、今回説明のあった2剤は、通年連用している薬剤の代替剤の1剤として、関心が高まっている。参加者からは、天敵に対する影響など熱心な質問があり、講演会と合わせ大変有意義な内容となった。次回、本研究会は、平成30年産みかんの適正な栽培管理を実施するために、会員のみかん園地にてみかんの粗摘果と夏季剪定に関する現地研修会を予定している。



新規登録農薬の特性を解説する農薬
メーカー担当者



製剤に関する質問を行う参加者